

教員名	伊藤 美重子 (ITO Mieko)
所 属	文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化講座
学 位	博士 (人文科学)
職 名	助教授
URL / E-mail	itomi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

敦煌文献 / 通俗文学 / 教訓書 / 童蒙書

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・学位論文：「敦煌文書にみる学校教育」（2006年12月、お茶の水女子大学に提出）
- ・報告：「敦煌文書と日本のかかわり」（2007年1月6日、於：北京外国語大学北京日本学研究センター。『〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成 平成18年度活動報告書』（pp217-222）

◆研究内容

2006年度はこれまで発表してきた敦煌文献の中の学校に関する資料についての研究をまとめ、「敦煌文書にみる学校教育」というタイトルの学位論文を完成させ、お茶の水女子大学に提出した。この論文の第一部「敦煌の学校と学生―「学郎題記」をめぐって」は、学位論文のための書き下ろしの部分である。

また、2006年度は「魅力ある大学院教育」イニシアティブにより、北京日本学センターにおいて敦煌文書にのこる文献が日本にも伝わっていたことを報告し、敦煌と日本は中国中央からみれば、文化の辺境であり、文化水準の類似性をいう問題を考えるよい機会を得た。

◆教育内容

学部の授業としては次の三種類の講義演習を担当している。

- (1) コア科目の外国語である中国語初級
- (2) 中国の古典文献（所謂「漢文」）の講読
- (3) 漢代の漢字字書『説文解字』の講読

大学院の授業としては、敦煌文献の講読を行っている。

◆将来の研究計画・研究の展望

敦煌文書の受容者という問題を考察し、中国における文化の階層についての考察を深化させてゆきたい。

◆受験生等へのメッセージ

中国は文字の国である。甲骨文から現在中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化を伝えてきた国である。漢字文化は中国のみにとどまらず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字や漢字によって書かれた文章を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとして、みずからを発見するよい機会となる。中国文化を学ぶことで、いろいろな発見をしてほしい。